

《地域貢献加速化プロジェクト 2016》

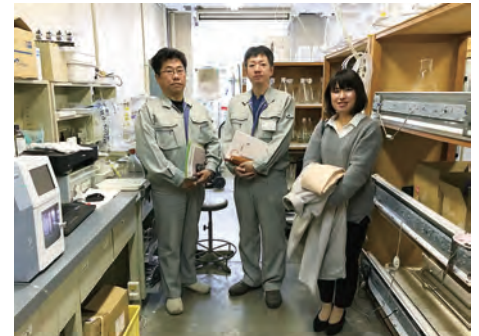
2016年度に新たにスタートしたプロジェクトを紹介します。京都府各地域で多様な活動を展開しています。

◆ 宮津市では.....藻類の増殖にプラズマを活用!

- プラズマを利用した藻類増殖促進技術の開発 -

高橋 和生 (電気電子工学系) / 井沢 真吾 (応用生物学系) / 西崎 綾 (高度技術支援センター)
連携先: 京都府農林水産技術センター海洋センター (宮津市)

プラズマを生物に与えるとストレスになります。過度なストレスは生長を妨げますが、適度なストレスは生長を促すことがわかっています。宮津市にある京都府農林水産技術センター海洋センターでは、アワビやサザエ、白トリガイなどの貝類の種苗、いわゆる稚貝を生産しており、そのエサとなるケイ藻などの藻類を増殖させる方法のひとつとして、プラズマの利用を研究しています。このプロジェクトでは、ストレスを制御するツールとして利用するためプラズマを発生させる条件を分析、藻類増殖促進技術につなげていきます。



(海洋センターのみなさん)

◆ 地元、京都市松ヶ崎では.....伝統野菜「松ヶ崎浮葉かぶ」の栽培と商品化

- 地域貢献を目指した京野菜「松ヶ崎浮葉かぶ」の栽培と京漬物の試作 -

堀元 栄枝 (昆虫先端研究推進センター 生物資源フィールド科学研究部門) / 森 肇 (理事・副学長)
連携先: 株式会社大安 (京都市)

古くより京都市左京区松ヶ崎で栽培されてきた地域固有の京野菜「松ヶ崎浮葉かぶ」。近年は生産農家も1戸となり、種苗の販売もされていません。松ヶ崎浮葉かぶの特性をいかした漬物を製品化することで、伝統野菜の認知度を高めて、栽培拡大を目指します。今回は、本学嵯峨キャンパスの圃場で松ヶ崎浮葉かぶを栽培し、株式会社大安へ提供。栽培時期などを検討し、漬物の試作を重ね、現在、佃煮での製品化が検討されています。



(松ヶ崎浮葉かぶ)

◆ 福知山市では.....個人の写真や8ミリフィルムを地域共有の財産に!

- ソーシャルデザイン拠点としての高校映像スタジオの活用プロジェクト -

池側 隆之 (デザイン・建築学系)
連携先: 京都府立大江高等学校 (福知山市)

8ミリフィルムや写真など個人が撮影・記録した映像を、地域の歴史や文化を物語る貴重な資料として活用するプロジェクトです。昔の写真のカラー化、8ミリ等の個人映像上映、VR (ヴァーチャルリアリティ) 映像の制作などを行っています。過去に撮影された映像を現在の新しい物語につなげることもできます。地域住民と協働するだけでなく、京都府立大江高等学校の映像スタジオを拠点として、本学学生と高校生が交流しながら行いました。またその成果を「映像ミュージアム・プロジェクト成果発表会」と題して、2017年2月24日(金)、25日(土)に大江高校で展示、多くのみなさまにご覧いただきました。

詳しくは...

「映像ミュージアム・プロジェクト」ウェブサイト (池側研究室) | <http://www.cis.kit.ac.jp/~ikegawa/museum/>



(成果発表会の様子)

◆ 福知山市では、展覧会も開催中! 2017年4月24日まで

- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 in 福知山 -

並木 誠士 / 松隈 洋 / 平芳 幸浩 / 和田 積希 (美術工芸資料館)
連携先: 福知山市、福知山市佐藤太清記念美術館、福知山公立大学 (福知山市)

福知山市と京都工芸繊維大学が包括協定を締結したことを記念して、福知山市佐藤太清記念美術館にて、京都工芸繊維大学美術工芸資料館名品展「アール・ヌーヴォーと浅井忠のデザイン教育」を開催しています。本学美術工芸資料館が所蔵するアール・ヌーヴォーの名品をご覧いただけるだけでなく、本学の前身である京都高等工芸学校が1902年に開学した頃のデザイン教育の一端をご覧いただけます。是非お越しください。

開催初日には、オープニングセレモニーで福知山市長を始め、関係者のみなさまにお越しいただきました。また、同じく包括協定を締結している福知山公立大学で、福知山市・福知山公立大学/京都工芸繊維大学包括協定締結記念シンポジウム「美術から見た「近代」—新しい時代が求めたもの—」を開催、福知山公立大学・井口和起学長、展覧会の担当者である福知山市地域振興部まちづくり推進課・八瀬正雄課長補佐兼文化振興係長をパネラーとしてお迎えしました。

詳しくは...

福知山市佐藤太清記念美術館 | <http://fukuchiyama-artmuseum.jp>

本学ホームページもご参照ください | http://www.cis.kit.ac.jp/2017/03/fukutchiyama_tenrankai/



(展覧会のポスター)

《地域貢献加速化プロジェクト以外にも地域で学ぶさまざまな授業があります》

◆ 京都府下鴨警察署 × 京都工芸繊維大学大学院デザイン学専攻デザインプロジェクト

本学松ヶ崎キャンパスがある京都市左京区を管轄している京都府下鴨警察署の警察官と本学大学院工学科学研究科デザイン学専攻の大学院生が協働し、地元左京区の地域課題の解決策を考えるプロジェクトが2016年度第3学期に行われました。自転車マナーの啓発や警察のイメージをどのように発信していくのか、など8チームに分かれた学生がさまざまな企画を提案。警察官と一緒に現場見学、調査、社会実験を行ったり、京都府の関連機関やポスター掲示が可能な地元企業などを紹介いただいたりするなかで、学生ならではの発想がかたちになっていきました。実現したプロジェクトの一部を紹介します。

- ちりりん娘 CHIRIRIN GIRLS PROJECT -

自転車マナーを守らないアイドル3人を立ち上げたチーム。デビューシングルの告知というかたちで展開したポスターが2016年12月から京都バスに掲示されています。



(最終プレゼンの様子)



(京都バスでの掲示)

授業概要：デザインプロジェクトB（大学院博士前期課程デザイン学専攻）

日程：2016年10月11日から11月22日まで

担当教員：中野 仁人 / 岡田 栄造 / 多田 羅 景太（デザイン・建築学系） * 制作した動画はこちらからご覧いただけます。 | http://www.pref.kyoto.jp/net_tv/kesatsu/044/html

- #9110 プロジェクト -

110番の啓発というテーマに取り組んだチームは、生活の安全に関する不安や悩みの相談窓口である警察相談専用番号「#9110」を子どもから大人まで親しみやすいものにしようという発想から、「どっちがあっTELでしょう!?ゲーム」を企画。警察官出演の動画*を作成することで、制服の警察官のイメージを変える、というテーマにも挑戦しました。2017年1月8日、京都府下鴨警察署が左京区のショッピングモールで行った啓発活動では、一般のみなさんにもゲームに参加していただきました。



(本学映像スタジオでの撮影の様子)



◆ 地域創生Tech Program「地域課題導入セミナー」

2016年度に開講した地域創生 Tech Program では、30人の新生を迎えました。このコースの学生を対象とした地域課題解決型授業が2泊3日で行われました。京都府北部5市2町の自治体の協力を得て、それぞれの自治体担当者が地域課題を提示、学生は7グループに分かれて、自治体職員等と一緒に現地を訪れて学び、課題解決に向けた提案を企画しました。1年次に受講することで、地域理解のきっかけを得ることができ、今後、地域課題解決に必要なことをどのように学ぶのか、学生が自覚を高める機会となりました。

授業概要：地域課題導入セミナー 日程：2016年8月8日から10日まで

担当教員：桑原 教彰、大谷 章夫（総合教育センター） / 津吹 達也（COC推進拠点） / 高倉 章雄、小澤 七洋（綾部地域連携室）



(フィールドワークの様子)

《京都府北部の企業と学生の交流の場が増えています》

◆ 綾部工業団地と連携

綾部市の連携事業として、企業見学会やインターンシップを実施しました。2016年9月9日に行われた企業見学会では、1年から3年次までさまざまな専門分野の学生が参加。本学卒業生との交流会もあり、具体的な仕事や暮らしに関することまで、情報共有ができました。2017年2月13日から14日、1泊2日で行われたインターンシップでは、機械系、化学系の企業6社が協力、1年次から参加することで、今後の学びにも弾みがつきました。



(綾部工業団地での見学会の様子)

◆ 京丹後市企業の京都工芸繊維大学見学ツアー

COC+事業の事業協働機関でもある丹後機械工業協同組合との連携により、2016年10月26日に京丹後市の企業から38名が本学松ヶ崎キャンパスに来学、見学ツアーが行われました。機械工学系の教員の協力により、公開研究室も実施、研究内容の紹介や装置の解説を本学学生が行いました。企業の方々と直接触れ合う機会となり、学生にとっても刺激的な場となりました。

《事務局だより》

◆ 京都府北部で連携の場が広がっています。北部地域の機関と協働することで学生が現地へ行く機会も増えそうです。

- 一般社団法人長田野工業センター及び一般社団法人綾部工業団地振興センターと産学連携及び人材育成に関する連携協定を締結（2016年10月3日）
- 福知山公立大学と教育研究、人材育成及び地域社会への貢献に関する連携協定包括協定を締結（2016年12月1日）

◆ 2016年度COC実行本部会議をはじめ、各部会を開催しました。

大学COC事業は4年目を迎え、これまで3年間の成果に対して、文部科学省の中間評価がありました。各会議では、評価や2015年度の活動などについて報告しました。COC+事業への展開を見据えたインターンシップへの協力などをお願いすると同時に学外委員から貴重な意見や期待などをいただきました。

- COC実行本部会議（第4回）2016年10月28日開催
- K16推進協議会（第5回）2016年12月14日開催
- 北部ものづくり・観光産業等振興部会（第4回）2017年1月24日開催
- 伝統・先端産業振興部会（第4回）2017年3月6日開催
- 文化・芸術発信・交流部会（第4回）2017年3月15日開催